

世界最大級のソーラーカーレースの優勝を人気一でお祝い

東海大学工学部電気電子工学科、木村英樹教授率いる、東海大学チャレンジャーのライトパワープロジェクトが10月28日、オーストラリアで開催されている世界最大規模のソーラーカーレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」(ソーラーカー部門)で、有力チームを抑えて見事に優勝を飾りました。この大会は、10月24日から31日の日程で、オーストラリアのダーウィンからアデレードまで、大陸を北から南へ縦断する約3000kmで走行時間を競う大会です。1987年から「ワールド・ソーラー・チャレンジ」として開催されていた由緒あるレースで、今回のソーラーカー部門には、マサチューセッツ工科大学やスタンフォード大学など世界中から30台以上が参戦しました。東海大学のマシン「Tokai Challenger」は、シャープ株式会社から高性能な化合物太陽電池の提供を受け、モーターやFRP(繊維強化)プラスチックなど、各分野で専門技術をもつ企業からのサポートを得て製作され、さらに、卒業生で世界的なリーダーライバーの篠塚建次郎氏を迎えるなど万全の態勢で参戦し、見事優勝!写真のようにアデレードで人気一スパークリング純米大吟醸でお祝いしました!



後日、このスパークリング日本酒でのお祝いの映像が、NHKのドキュメンタリーや民放で放送されましたのでご覧になった方も多いかと思えます。

今年度の人気一酒造りレポート

人気酒造では10月後半から酒造りを始めました。今年の新米が入荷し、早速仕込スタートです。仕込んだ酒はほとんど純米吟醸で、早いものは12月には「初しぼり 純米吟醸」と『にがり純米吟醸』として発売されました。

大吟醸の仕込

1月7日今日の天気は雪、昨日から大吟醸の麴で泊まりの仕込が始まりました。麴室はちよつと高めの温度で35度以上あります、湿度も高いのでカメラがくもってしまい、こんな写真になってしまいました。蒸しも写真のように小さな甑で小仕込で丁寧な造りで行います。人気一の最高峰の酒は今年の造りも順調です。



大吟醸の洗米作業

写真のように40%精米の山田錦を少しづつ丁寧に手洗いします。正確に時間を計り、1分手洗いし、1分水で流し、8分吸水させる作業です。その後ムシロに広げ枯らしします。高度に精白されたお米は、短時間で吸水し、その水分量が良質な蒸米の条件です。良い麴を造るには、この原料処理がとっても重要な作業なのです。



大吟醸の醪(もろみ)

今年の大吟醸がとても良い出来になってきました。例年、一番寒さの厳しい今頃(1月)に仕込むのですが、今年は寒すぎて暖めるくらしい状況です。素晴らしい香りですので楽しみにしてください。

